

令和4年度

在宅療養者を取り巻く口腔ケア・在宅歯科診療の状況調査報告書

I 目的

この調査は、都内の居宅介護事業所における在宅療養者の口腔ケアや歯科診療の実施状況等を把握することにより、東京都歯科保健推進計画「いい歯東京」の達成度を評価するとともに、今後の歯科保健医療対策の推進に必要な課題等を把握し、次期歯科保健推進計画を策定するための基礎資料を得ることを目的とする。

II 対象及び方法

1 対象者

都内の居宅介護事業所から無作為に抽出した1,000か所に在籍するケアマネジャー 1,000人
対象者であるケアマネジャーが担当する居宅サービス利用者(以下、「利用者」という。) 3,000人

2 実施方法

令和4年1月25日付で、各事業所に対して、ケアマネジャーと利用者に関する調査票を郵送し、令和4年2月13日を期限として回収した。なお、ケアマネジャーについては、各事業所につき1名、利用者については、ケアマネジャー1名につき最大3名の回答を依頼した。

3 調査項目

(1) ケアマネジャーについて

- ア 回答者の状況
 - ・ケアマネジャー業務年数
 - ・ケアプランを担当する利用者数
 - ・保有資格
- イ 利用者における歯科受診の必要性
- ウ 担当する利用者の歯や口腔の状況の把握
 - ・把握する対象
 - ・把握の頻度
 - ・把握の方法
- エ 担当する利用者の口腔内の観察の実施
 - ・観察の実施頻度
 - ・観察を実施していない理由
- オ 担当する利用者の歯科受診の相談・依頼の状況
- カ 歯科支援を必要とする利用者のケアプランの作成
 - ・歯科支援(口腔機能向上加算を含む)の提案の状況

- ・提案しない理由
- キ 利用者の口腔内の状況を把握するために必要と思うこと

(2) 居宅サービス利用者について

- ア 利用者の状況
 - ・性別、年齢、要介護度
 - ・既往歴、過去3か月の入院歴
- イ 口腔ケアの状況について
 - ・口腔ケアの実施者
 - ・口腔ケアを行っていない理由
- ウ 定期歯科健診の受診状況
- エ 食事について
 - ・食事の仕方
 - ・経口による食事での介助の状況
 - ・歯や口に関して気になること
 - ・食事、歯や口に関しての相談先
 - ・相談しない理由
- オ 誤嚥性肺炎の予防における口腔を清潔にすることの重要性についての利用者や家族への伝達

4 解析

調査結果の解析は、日本大学歯学部衛生学講座 川戸貴行教授、日本大学 尾崎哲則客員教授が行った。

Ⅲ 結果

1 回答数

本調査では、358 施設から回答があり、ケアマネジャー369 名分、居宅サービス利用者 866 名分の調査票が得られた。なお、6施設からは複数のケアマネジャーについての調査票の提出があり、内容が一様ではなかったことから、個々のケアマネジャーの状況を示すものと判断して集計に含めた。

2 ケアマネジャーについて

(1)回答者の状況

業務年数は、平均 11.9 年であり、10～20 年が最も多かった。現在、ケアプランを担当する利用者数は 30～39 人の回答が最も多く、次いで多かった 20～29 人、40～49 人の回答数を大きく上回った。ケアマネジャー以外に保有する資格としては、介護福祉士が 79.1%と最も多く、次いで社会福祉士が 22.0%であり、資格についてのその他の記載(38件)では、社会福祉主事(7件)、精神保健福祉士(5件)、鍼灸マッサージ師(5件)などが認められた。

表 1 業務年数

n=360	
(年)	
平均	11.9
標準偏差	5.1
中央値	11.0
最大値	23.0
最小値	0.5

図 1 業務年数の分布

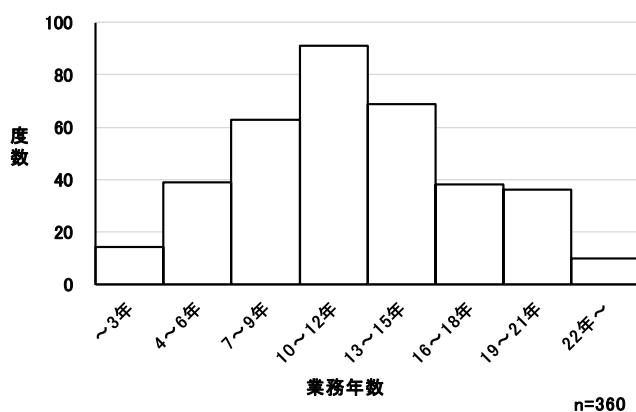


図 2 ケアプランを担当する利用者数

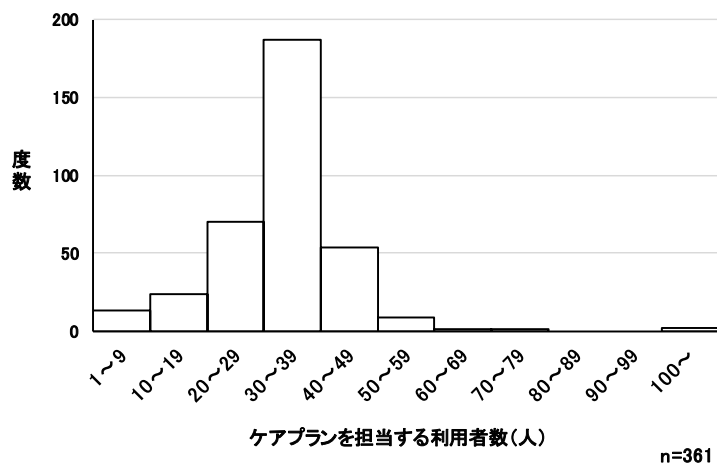


表 2 保有資格(複数回答)

	全体	介護福祉士	社会福祉士	看護師	訪問介護員	歯科衛生士	その他	無回答
総数	369	292	81	32	29	16	65	10
割合	100%	79.1%	22.0%	8.7%	7.9%	4.3%	17.6%	2.7%

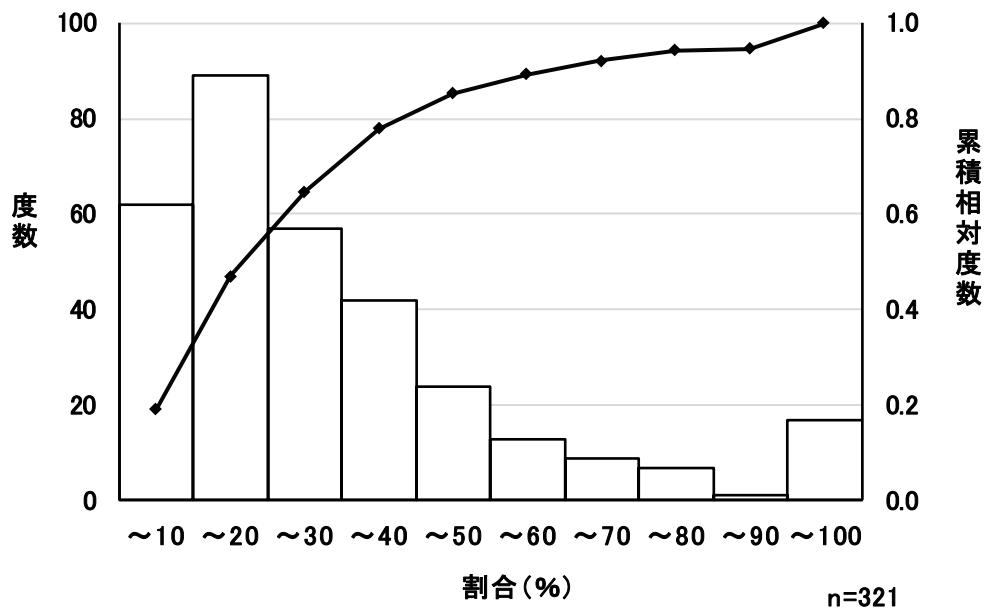
(2) 利用者における歯科受診の必要性

担当する利用者のうち、歯科医師に診てもらった方が良いケース(歯科治療中、定期受診を含む。)があるとの回答は 90.8%であった。また、利用者のうち、歯科受診を要するケースの割合の回答は、20%台が最も多く、50%台までが回答の8割以上を占めた。なお、単一回答を想定した質問であったが複数回答が認められており、表3ではそれらを含めた集計結果を示した。

表3 歯科医師に診てもらった方が良いケース(複数回答)

	全 体	ケースあり	把握していない	判断できない	その他	無回答
総 数	369	335	18	9	6	5
割 合	100%	90.8%	4.9%	2.4%	1.6%	1.4%

図3 担当する利用者のうち歯科受診を要するケースの割合の分布



(3) 担当する利用者の歯や口腔の状況の把握について

ア 把握の状況

必要と思われた利用者のみ把握しているとの回答が 70.5%、原則、全員を把握が 23.0%であり、これらの回答が9割を占めた。

表 4 歯や口腔の状況の把握の状況

	全 体	原則、全員	必要と思われた利用者のみ	ほとんど把握していない	全く把握していない	無回答
総 数	369	85	260	20	1	3
割 合	100%	23.0%	70.5%	5.4%	0.3%	0.8%

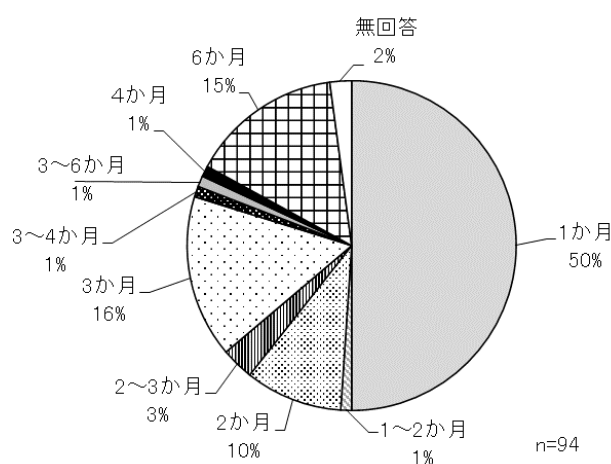
イ 把握の頻度

原則、全員、または必要と思われた利用者のみ把握と回答したケアマネジャーに、把握する頻度を尋ねたところ、不定期が 40%台と最も多く、次いで初回訪問時と定期的がそれぞれ 20%後半、毎回は 10%未満であった。定期的の内訳は、1か月に1回が半数を占めた。

表 5 歯や口腔の状況の把握の頻度(複数回答)

	全 体	毎回	定期的	初回訪問時	不定期	その他	無回答
総 数	345	27	94	100	151	32	0
割 合	100%	7.8%	27.2%	29.0%	43.8%	9.3%	0.0%

図 4 定期的な把握の内訳



ウ 把握の方法

把握の方法は、本人・家族からのヒアリングが 87.0%と最も多く、次いで利用者が受診する歯科医師からの情報提供が 47.0%であり、これらの回答が口腔内観察による把握の 16.8%やマニュアルや評価シートの利用の 3.5%を大きく上回った。

表 6 歯や口腔の状況の把握の方法(複数回答)

	全 体	本人・家族 からの ヒアリング	口腔内 観察	マニュアル や評価 シートの 利用	利用者が受 診する歯科 医師からの 情報提供	その他	無回答
総 数	345	300	58	12	162	27	20
割 合	100%	87.0%	16.8%	3.5%	47.0%	7.8%	5.8%

(4) 担当する利用者の口腔内の観察について

ア 観察の実施状況

ときどき実施しているとの回答が40.4%と、ほとんど実施していないの45.3%を下回り、常に実施しているとの回答は1.9%であった。前述した歯や口の状況の把握の方法として口腔内観察が16.8%にとどまった結果と乖離しない回答状況であった。

表7 口腔内観察の実施状況

	合計	常に実施している	ときどき実施している	ほとんど実施していない	全く実施していない	無回答
総数	369	7	149	167	44	2
割合	100%	1.9%	40.4%	45.3%	11.9%	0.5%

イ 観察を実施していない理由

口腔内の観察をほとんど、またはまったく実施していないと回答したケアマネジャーの53.1%が、確認するための知識を持っていないことを理由に挙げていた。また、本人・家族が希望しない、優先度が低いとの回答は、それぞれ36.5%、19.9%であり、必要性を感じていないとの回答は3.8%であった。

表8 口腔内の観察を実施していない理由(複数回答)

	全体	本人・家族が希望しない	必要性を感じていない	優先度が低い	確認するための知識を持っていない	その他	無回答
総数	211	77	8	42	112	44	2
割合	100%	36.5%	3.8%	19.9%	53.1%	20.9%	0.9%

(5) 担当する利用者の歯科受診の相談・依頼について

ア 相談・依頼先

訪問歯科専門の歯科診療所が 78.3%と最も多く、次いで利用者のかかりつけ歯科医が 60.2%であった。これらに比べて、地区の歯科医師会、自治体の相談窓口、提携歯科医療機関を挙げたケアマネジャーは少なく、数%から十数%であった。また、特に依頼しないとの回答では、理由についての記載は無かった。

表 9 利用者の歯科受診の相談・依頼先

	全 体	利用者の かかりつけ 歯科医	提携歯科 医療機関	訪問歯科 専門歯科 診療所	地区歯科 医師会	自治体の 相談窓口	訪問 看護師	特に依頼 しない	無回答
総 数	369	222	22	289	42	15	32	3	0
割 合	100%	60.2%	6.0%	78.3%	11.4%	4.1%	8.7%	0.8%	0.0%

(6) 歯科支援を必要とする利用者のケアプランの作成について

ア 歯科支援(口腔機能向上加算を含む。)の提案の状況

状況に応じて提案しているとの回答が最も多く 68.6%であり、積極的に提案しているとの回答である 9.2%と合わせると、ケアプランの作成時の歯科支援に前向きな回答が8割近くを占めた。

表 10 ケアプラン作成時の歯科支援の提案

	合計	積極的に 提案して いる	状況に応じ て提案して いる	ほとんど 提案して いない	提案して いない	その他	無回答
総数	369	34	253	39	28	5	10
割合	100%	9.2%	68.6%	10.6%	7.6%	1.4%	2.7%

イ 提案しない理由

ほとんど提案していない、または提案していないと回答したケアマネジャーに、提案しないに理由を尋ねたところ、歯科支援に関する知識がないとの回答が最も多く 49.3%、次いで利用者本人や家族が希望しないとの回答が 40.3%であった。これらの回答は、ケアプランに歯科支援は必要ないとの回答の 7.5%を大きく上回った。

表 11 歯科支援を提案しない理由(複数回答)

	全体	歯科支援に 関する知識 がない	ケアプラン に歯科支援 は必要ない	利用者本人 や家族が 希望しない	その他	無回答
総数	67	33	5	27	6	34
割合	100%	49.3%	7.5%	40.3%	9.0%	50.7%

(7) 利用者の口腔内の状況を把握するために必要と思うこと

相談先となる歯科医師や歯科衛生士、チェックシートと回答したケアマネジャーが、それぞれ半数を超え、研修との回答も3割程、認められた。前述の口腔内を観察しない理由(表8)においても、必要性を感じていないが数%に対して、知識を持っていないが50%を超えていたことから、口腔内の状況の把握に必要な知識や手段を得るための機会を求めている状況が伺えた。

表 12 利用者の口腔内の状況を把握するために必要と思うこと(複数回答)

	全 体	チェック シート	マニュアル	研修	相談先となる 歯科医師や 歯科衛生士	その他	無回答
総 数	369	199	79	113	204	15	12
割 合	100%	53.9%	21.4%	30.6%	55.3%	4.1%	3.3%

3 居宅サービス利用者の状況

(1) 回答ケースの状況

ア 性別、年齢、介護度

男性 38.3%、女性 60.6%と女性の割合が高かった。年齢階級では 85～94 歳が最も多く、後期高齢者となる 75 歳以上が約8割を占めた。また、2 号被保険者に当たる 64 歳未満は 1 割未満であった。要介護度は 2 度が最も多かった。

表 13 利用者の性別

	全体	男性	女性	不明
度数	866	332	525	9
割合	100%	38.3%	60.6%	1.0%

図 5 利用者の年齢階級別の分布

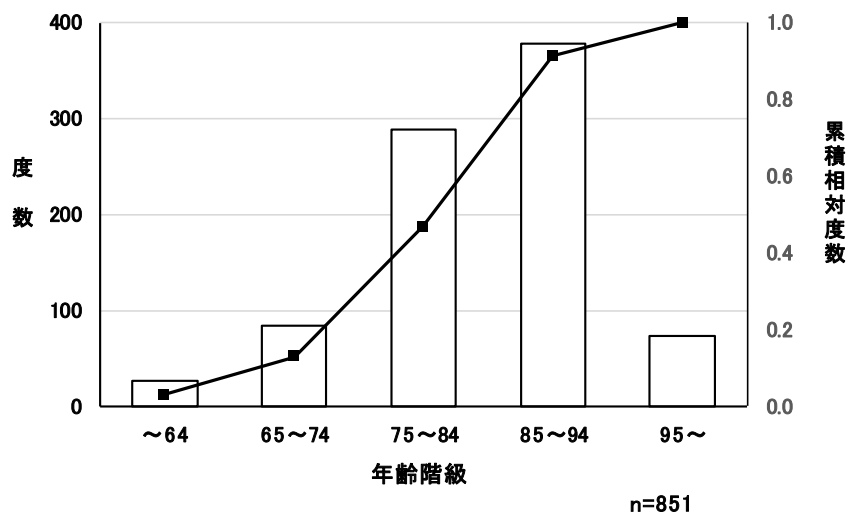
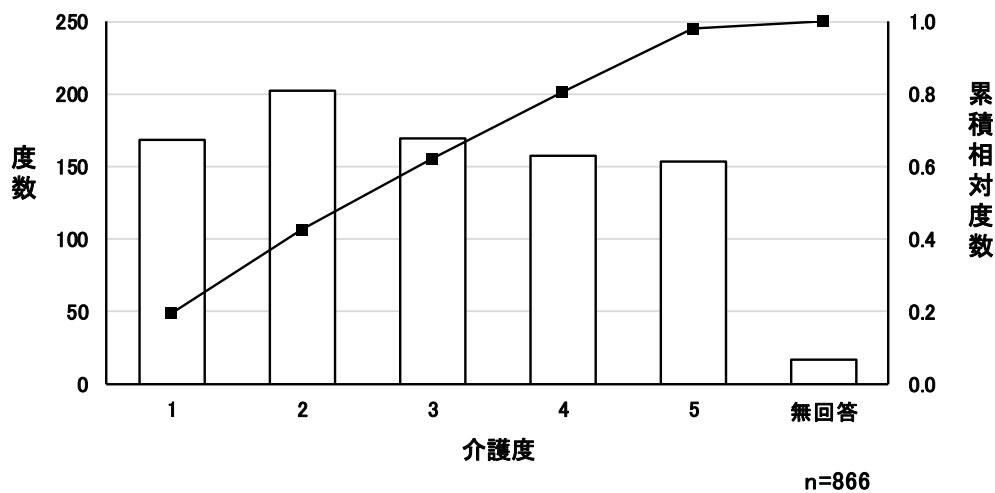


図 6 要介護度



イ 既往歴、入院歴

利用者の既往歴としては、認知症が31.4%と最も多く、次いで脳血管疾患が23.8%であった。また、過去3か月に入院歴のある利用者は39.4%であり、入院の原因としては、脳血管疾患が21.1%と最も多く、次いで循環器疾患15.8%、肺炎15.2%、関節疾患11.7%の順であった。その他として挙げられた疾患としては、骨折が31件と多く、また、新型コロナウイルス感染症(検査陽性を含む。)が10件認められた。

表 14 既往歴(複数回答)

	全 体	肺 炎	吸器系 疾患	脳血管 疾患	循環器 系疾患	糖尿病	腫瘍性 疾患	関節 疾患	神経筋 疾患	認知症	その他	特記 すべき 既往なし
度 数	866	42	72	206	154	128	42	125	69	272	180	40
割 合	100	4.8%	8.3%	23.8%	17.8%	14.8%	4.8%	14.4%	8.0%	31.4%	20.8%	4.6%

表 15 過去3か月の入院歴の有無

	全 体	なし	あり	不 明
度 数	866	483	341	42
割 合	100%	55.8%	39.4%	4.8%

表 16 入院の原因(複数回答)

	全 体	肺 炎	吸器系 疾患	脳血管 疾患	循環器 系疾患	糖尿病	腫瘍性 疾患	関節 疾患	神経筋 疾患	認知症	その他	不 明
度 数	341	52	23	72	54	8	18	40	18	19	114	7
割 合	100%	15.2%	6.7%	21.1%	15.8%	2.3%	5.3%	11.7%	5.3%	5.6%	33.4%	2.1%

(2) 口腔ケアの状況

ア 口腔ケアの実施者

口腔ケアの実施者は、本人が 62.2%で最も多く、次いで家族が 25.5%、訪問介護員が 14.8%、訪問看護師が 5.9%の順であり、行っていないとの回答は 4.4%であった。また、口腔ケアを行っていない理由としては、利用者や本人の意向が 36.8%と最も多かった。

表 17 口腔ケアの実施者(複数回答)

	全 体	本 人	家 族	訪 問 介 護 員	訪 問 看 護 師	行 っ て い ない	そ の 他	無 回 答
度 数	866	539	221	128	51	38	57	4
割 合	100%	62.2%	25.5%	14.8%	5.9%	4.4%	6.6%	0.5%

表 18 口腔ケアを行わない理由

	全 体	利用者や 本人の意向	必要性を 感じない	優先度が 低いため	実施方法が 分からない	そ の 他	無 回 答
度 数	38	14	4	3	3	12	2
割 合	100%	36.8%	10.5%	7.9%	7.9%	31.6%	5.3%

(3) 定期歯科健診の受診の状況について

定期歯科健診を受診している利用者は、72.2%であった。受診形態別にみた受診先としては、通院による受診では利用者のかかりつけ歯科医が17.4%、訪問による受診では、訪問歯科専門の歯科診療所が49.0%であり、行政や地域の歯科医師会の紹介は、通院では0%、訪問も1%に満たなかった。受診しない理由では、利用者本人が希望しないとの回答が39.1%と最も多かった。

表 19 定期歯科健診の受診の有無

	全 体	受診している	受診していない	無回答
度 数	866	625	192	49
割 合	100%	72.2%	22.2%	5.7%

表 20 受診形態別にみた定期歯科健診の受診先(複数選択)

		度 数	割 合
全 体		625	100%
通 院	利用者のかかりつけ歯科医	109	17.4%
	訪問歯科専門歯科診療所	29	4.6%
	行政や地域の歯科医師会からの紹介	0	0.0%
	ケママネージャーからの紹介	5	0.8%
	無回答	2	0.3%
訪 問	利用者のかかりつけ歯科医	45	7.2%
	訪問歯科専門歯科診療所	306	49.0%
	行政や地域の歯科医師会からの紹介	5	0.8%
	ケママネージャーからの紹介	175	28.0%
	無回答	4	0.6%

表 21 定期歯科健診を受診しない理由(複数選択)

	度 数	割 合
全 体	192	100%
利用者本人や家族がが希望しない	75	39.1%
通院が難しい	55	28.6%
訪問してくれる歯科医療機関がわからない	2	1.0%
必要に応じて受診しているから	67	34.9%
その他	32	16.7%
無回答	4	2.1%

(4) 食事の状況

ア 食事の仕方

食事の仕方としては、経口が91.9%、胃ろうが3.6%、他の方法は1%未満であった。経口による食事の状況としては、自立が71.7%と最も多く、次いで部分介助が17.7%であり、全介助は6.9%であった。

表 22 利用者の食事の仕方(複数選択)

	全 体	経 口	胃ろう	経鼻栄養	静脈栄養 (点滴など)	その他	不明
度 数	866	796	31	3	3	5	35
割 合	100%	91.9%	3.6%	0.3%	0.3%	0.6%	4.0%

表 23 経口にて食事での介助の状況

	全 体	自 立	部分介助	全介助	不明
度 数	796	566	141	55	34
割 合	100%	71.1%	17.7%	6.9%	4.3%

イ 食事や日常生活で歯や口に関して気になること

固いものが噛みにくいが40.4%と最も多く、次いで、むせることがあるとの回答が19.7%認められた。これらの回答状況から、居宅サービス利用者は、多くが介助を必要とすることなく経口から食事をとっているものの、口腔機能に問題を有しているケースも少なくない状況が伺えた。

表 24 食事の時や日常生活で歯や口に関して気になること(複数選択)

	度 数	割 合
全体	866	100%
食事が十分とれない	94	10.9%
食事中によくむせることがある	171	19.7%
食べ物をよくこぼす	137	15.8%
よだれが多い	45	5.2%
飲み込むのに苦労することが多い	99	11.4%
固いものが噛みにくい	350	40.4%
舌に白い苔のようなものがついている	28	3.2%
口が渴いている	61	7.0%
口臭が気になる	45	5.2%
入れ歯が外れやすい	126	14.5%
歯が痛む	83	9.6%
歯ぐきが痛む	133	15.4%
その他	124	14.3%
無回答	115	13.3%

イ 食事、歯や口に関する相談

食事、歯や口に関して困った時の相談先としては、訪問歯科専門の歯科診療所が52.3%と最も多く、次いで利用者のかかりつけ歯科医が38.3%であり、地区歯科医師会や自治体は1%未満とごくわずかであった。また、特に相談しないとの回答が7.3%認められ、その理由としては必要性を感じていないが54.0%と最も多かった。

表 25 食事や歯や口に関する相談先(複数選択)

	全 体	利用者の かかりつ け歯科医	提携歯科 医療機関	訪問歯科 専門歯科 診療所	地区歯科 医師会	自治体の 相談先	特に相談 していない	その他	無回答
度 数	866	332	11	453	6	3	63	94	14
割 合	100%	38.3%	1.3%	52.3%	0.7%	0.3%	7.3%	10.9%	1.6%

表 26 特に相談しない理由(複数選択)

	全 体	必要性を 感じない	相談先や方法 がわからない	利用者や本人 の希望	その他	無回答
度 数	63	34	6	17	9	2
割 合	100%	54.0%	9.5%	27.0%	14.3%	3.2%

(5) 口腔を清潔にすることの重要性の利用者や家族への周知

誤嚥性肺炎を予防する上で口腔を清潔にすることの重要性について、利用者や家族に伝えたことがあるとの回答は、91.7%であった。

表 27 口腔を清潔にすることの重要性の利用者や家族への伝達

	全 体	伝えている	伝えていない	無回答
度 数	63	794	60	12
割 合	100%	91.7%	6.9%	1.4%